



図131 城跡の位置
5万分1地形図「弥彦」

松岳山城跡 西蒲区岩室温泉

岩室神社の背後に標高一七四メートルの松ヶ岳（松岳山）がある。「岩室小富士」といわれる目立つ山で、神社のわきの道から登ると、一〇分ほどで山頂へ着く。松岳山城跡は、松ヶ岳山頂に築かれた山城跡である。山頂からは、東に広がる越後平野はもちろんのこと、南北の山麓も一望できる。

山頂部にある東西四〇メートル、南北三五メートルの平坦地に、城の中心部の実城が築かれたと考えられる。この平坦地の南端には一〇メートル四方の高まりがあり、櫓台の跡と推定されている。山頂部の周辺には、階段状に平坦地が造成されており、要所に堀や土塁がつけられている。特に、城の西側に作られた空堀（大堀切）は、上幅約三〇メートル、底幅約一〇メートル、長さ約三〇メートルという大規模なものである。高い防御性とともに、鉄砲による戦いが行われた戦国時代の造作であることを示唆している。山城の範囲は、東西三八〇メートル、南北八〇メートルほどと考えられている。

中世の古文書には松岳山城の名前は全く残されていない。そのため、城の実態や来歴については不明な点が多い。松岳山城の西南約七〇〇メートルには、小国氏の本拠の天神山城がある。松岳山城は、戦いの際に天神山城の支城としての役割を果たしたのであるだろうか。

第2章 弥彦・角田山周辺の遺跡

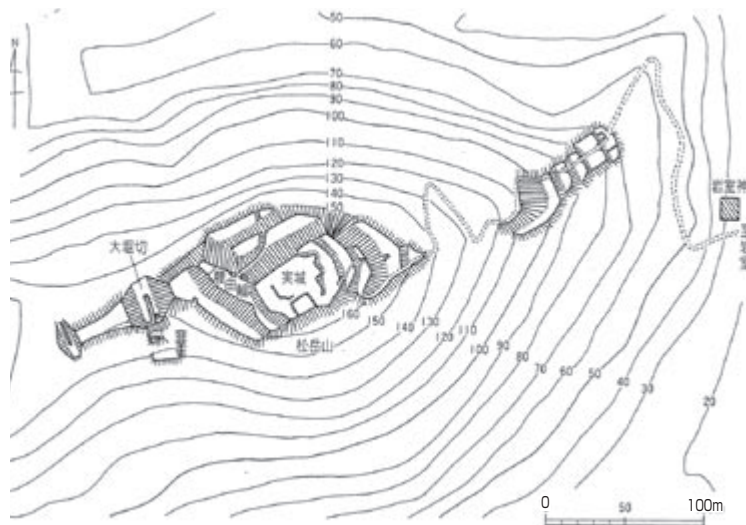


図132 山城遺構 『吉田町史』資料編1から転載



図133 松ヶ岳 (松岳山)

松岳山城跡は、昭和四十三（一九六八）年に岩室村の史跡に指定され、新潟市の史跡に継承されている。